

---

# 転生ものだってよコノヤロオオオ！！！！

亜麻音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生ものだってよコノヤロオオオ!!!

### 【Nコード】

N9334Z

### 【作者名】

亜麻音

### 【あらすじ】

とある事件に巻き込まれ私は死んだ！  
そして命日が

まさかの私の誕生日！？

でも私は死んで

よかったと思ってる！！

親に赤点のテスト見せずに済むし！

なんせ見兼ねた神が私に

誕生日プレゼントとして、私の大い好きな銀魂の世界に特別に転生してくれるって言ったから！！！！

転生ものです！！！！

ただの厨二病患者の末期症状が発動して作った駄作！パツと思い付いてパツと書いた駄作なので期待はしないように！！

## 設定（前書き）

登場人物等の紹介です!!!

## 設定

### 設定

### 主人公

・安西 茂玻

（あんざい しげは）

・年齢：17歳

・身長：162.8?

・性別：女

・髪型：肩より下

色は焦げ茶で

ストレートヘア

・特技：アーチェリー

### 剣道

（代々家が剣道で有名）・好きな物

甘い物ならオール

ハンバーガー

ケーキ（特にチーズケーキ）

・嫌いな物

辛い物

マヨネーズ（まずいから）

納豆

・特徴

スタイル抜群！！

スリーサイズは…

ご想像にお任せします。  
なるべく

胸は…でかく…（笑）

銀魂を愛して愛してやまないJK。口が悪い時は度々ですが普段は  
しつかり者！

・アゲンⅡサイクレットⅡライマ

・性別：男

・通称：神

・茂坂を銀魂の世界に転生させた人？・好きな物

チヨコレート

チヨココロネ

チヨコチヨコ…

チヨコ類なら何でも！

・嫌いな物

・トマト

・季節でいうなら春（花粉症になるから……

ていうか神も花粉症引くんだ…。）

年齢：4345歳

特技：かなりのゲーマー

特にP P、P 3

縄跳び

餓鬼っぱいが神としての仕事もちゃんとやっている！

くらいですかね？  
後はご想像にお任せ

## 設定（後書き）

だいたい人物像は生まれましたか？

次は本文です



## 転生という名の「転生」（前書き）

皆さんどうもこんにちはorはじめまして!!!「薔薇獄少女」を書いています亜麻音です！

今回は新しい小説も新連載することにしました！

ダメダメ駄作ですが見てくれた方々ほんとに感謝しています!!  
それではどうぞ

## 転生という名の「転生」

「茂玻あっ！！！」

「…おい大丈夫か！！」

「すつすぐに救急車を…」

「死んじゃ駄目だっ！」

「手当てだっ！」

出血が酷すぎる！！

おいそのタオル…」

（皆ぎゃーぎゃー煩いんだよ。なんでそんなざわついているの…。

ていうか…身体痛ったあ…腹痛いし…なんか視界もぼやけてきたし

…。

ああ最悪…。

？

何だろう…。なんか今日記念日じゃなかった？

凄く大切な……………？

てか……………

眠くなってきた…。

ちょっと…

くらい…良いよね…？

道端…で寝…たって…)

「ん……………」

目が覚めた。今だ眠気眼の目を何度か瞬きをする。

そこは空でも

自分の部屋でも

ましてや教室の天井でもない。

「白…?」

辺り一面真っ白

上半身むくりと

起き上がらせ前後左右確認するが  
やはり白。

「何処ここ…。」

「此処は狭間じゃ。」

突然何処からか声が  
聞こえ振り向く。

さっきまで居なかった場所に

じじい…

「神じゃ！……！！！」

すぐに訂正されたが  
見るからに

じじい

「だから神じゃ！……！！！！！」

「私の心読めるの？」

私は問う

「ああ…わしは神だからなお前達の心くらい簡単に分かるわい  
！」らしい…

「でさ…お爺ちゃん…此処狭間とか言っただけ…何私死んだの？」

「だからお爺ちゃん…じゃなくて神じゃ！！！！覚えとらんか？」

「うん！嫌なくらい  
めっちゃくちゃ  
はつきり覚えてる。  
確か私……」

遡ること10分前

私こと

安西茂玻は  
ちようど部活帰りだった。

私

合わせて仲良し三人組と  
恋バナとか

友達が一つ上の先輩と付き合ってるらしく昨日デートしたとかキス  
あああああ  
そんな話で  
キヤーキヤーしてたけど、正直

私は恋愛など

これっぽっちも興味がない。

二次元一筋だしっ

裏ではそういう風に思ってるけど  
まあ話は聞くだけ聞いてた。交差点が赤から青に  
変わって歩き出そうと時、後方の方で奇声が走った。何事かと思っ

て後ろ振り向いた刹那、

ドスッ！

黒いハンチング帽を深く被ってマスクとグラスンいかにも不審者っぽい男が私のすぐ横を走っていった。  
それはもうスローモーションのようで……。

私は何かお腹に違和感があったから

視線を向けた瞬間

うわっ

どんぴしゃじゃん！

私のお腹は紅く綺麗な円にみるみるうちに染まっていく。さすがに痛みがきつくてそのまま崩れ落ちるように倒れた。  
友達是我的名前とか叫んでたけど  
後助け呼んだり？

でも死ぬ間際ってドラマでも見たことあるけど  
本当に意識朦朧とするんだね？まあそこからはご想像の通り死んだ  
ってわけ。

「みたいな感じ？」

「いやわしに問われても返す言葉がない。  
ただ単にご愁傷様じゃ……。」

「んで私は死んだからその『狭間』とかいう空間に来て神と会った。」

「左様。」

……

……

……

……

「で？」

「……で？」

私の問いに思わず聞き返す神。

「いやいやだから私

『狭間』

来たから……？

何ここで天国or地獄行きたい場所選べとかそついうのじゃなくて？  
もしかして

お爺ちゃんって逝き先案内人とか？」

一人で納得して頭の横らへんに豆電球が輝る。



「だからお爺ちゃんじゃなくて神！！！！かあみ！！！！

お前さん良いのか！！！！わしはお前さんを救ってやったというのに  
「！

「へっ？」

「お前さん今日が何の日か忘れたのか！！！」

「うーんとねえ……………」

……………

ポン…………ポン…………ポン

チーン!!

「建国記念の日……!!!!」

「違うわあああい!!!!」怒鳴り付けられた。  
その声に髪が靡く。

「じゃあ何よ。あんたの誕生日だとか……?」

ハア…。

（あっ！神も溜息つくんだ!!！カメラ持ってきていれば良かった。  
）

「10月22日……お前さんの誕生日だろっ」

「あっそうか！

そうだったね！私の誕生日かあ……。

[illegible]

.....

「誕生日いいいいいい！！！！！！」

私は大声で発した！！！！

「そうじゃお前さん自分の誕生日も忘れていたのか!」

「そ……そんな……それじゃそれじゃ……」

私はケーキを食べられないのよオオ!!!」

私は真つ白の床にはいつくばり叩く！

「そんなああ！ケーキ！

私のチーズケーキ！！私の祝日！！私の！！私の！！」

「で何処が良いんじゃ？  
転生場所は？」

「he...？」

あどけない声を出してしまったが  
今は女がどうだこうだ関係ない。

「転生場所...？」

「いくら死んだ人間でも自分の命日が自分の誕生日とは可哀相であ  
ろつ。それもお前さんはまだ若い。  
青春を謳歌する年頃には最適じゃ。」

「じゃあ…」

「これはわしからの誕生日プレゼントじゃ！だから…」

「じゃあ銀魂の世界が良い！！！」

「うん…まずは人の話を最後まで聞こう。」

そう私が夢見ていた世界。

銀魂。

特に主人公の

坂田銀時

通称：銀さん

私の携帯には

八割方銀魂の画像で埋まっている。

銀魂シリーズのメル画も 数ある中だ。

そして

「そしてこの展開と言えばまさに“転生もの”とか  
“クロスオーバー”とかそういうやつでしょ！！！」

「

こういう展開分かる！！

神の手違いなどで  
死んでしまった人間を  
別時限へと飛ばしその世界で自分として生きれる。

まさに

ヲタクとって

夢の中のまた夢の話

私の場合  
理由<sup>わけ</sup>が違<sup>ちが</sup>うが

“これは転生もの”

「で…！出来るの？転生！！！」

私はウキウキワクワクしながらその返答を待った。  
返答を待たずにも

言われなくても  
返事は知ってる。

「可能じゃ。」

ほら来たああああ！！！！

「じゃあさっそくだが  
銀魂の世界に飛ばす

意識飛ぶ可能性あるが  
気をつけるんじゃぞ！」

「アイアイサあー!!」

「それと最後に言うておく…。」

「。」

「えっ…今なんて？」

「神は二度は言わん!!  
モタモタしてるうちに  
ほらっ！」

視線を下に向けた。  
私も視線を下に向けると…

床が孤状に切り取られていた。私の居る場所だけ…  
「げっ！！これって…」

「楽しんでくんじゃぞ」  
手を振られた瞬間

そのまま一気に落下。

「いやあああああ………」  
数秒も経たない状態で女の姿は跡形も無く消えた。  
いや落ちた！！

神は小声で言った。

「HAPPY BIRTHDAY………」

……と。



転生という名の「転生」(後書き)

どうでしょう？

素晴らしい駄作だったでしょう!!!

次回も見てくださいと嬉しいです(^^ゞ

無事到着！？（前書き）

無事到着！？しなかったら話すすまないじゃん！

無事到着！？

コクッ

首が唸った。

私はいつのまにか団子屋の椅子に座ってみたらし団子を手に持ちながら寝ていた。

言い方を変えれば

いつの間にか銀魂の世界に来ていた。  
顔を上げれば

餓鬼が駒回してたり  
極道門っばい兄貴等が公道を歩いてたり  
着物姿の女性

笠を深く被った男

黒い隊服すなわち

真選組の隊士の面々  
そして

白を纏う隊服

見廻組の者共

げっ  
…

マダオじゃん。

原作漫画・アニメで  
見たことのある

銀魂お馴染み

キャスト達が歩いている。

「

マジで銀魂世界きたあああああ！！！！！！！！！」

叫びながら

席を立ち

団子を持ちながら両手を空へ上げる。

叫んだ瞬間の皆の視線が異様に冷たく　すぐに席に静かに座る

（ばっ…馬鹿私！！！！）

興奮しすぎて叫んじやつたじゃない！？

普通にしときなさい！！！！普通に）

そう自分に言い聞かせていると

「あっ…あの…お客様…」

突然声を掛けられた。

その人は

団子屋の女主人。

「はい…？」

女主人は申し訳なさそうに

「あ…あの…なんか

変な御祖…いや…

…自称かつ……神？

とか申される方が

「団子屋で妙にテンションが高くて頭がいかにも逝かれてそうな女が居たらこの手紙を渡してほしい」  
とのことなのですが……」

一枚の封筒を渡される。  
そこにはでかく

『転生完了の通知』

との

整った正字。

（…何私そんなに目立ってた？  
ていうか

「イカれてそう」

じゃなくて

「逝かれてそう!？」

まあ私一回死んでるから別に良いけど…。」

少々イラッときた

団子屋で大声出したことは謝るけど

人判断するの早くない？

私だって決め付けるの

ましてやイカれてそうだって思った訳でしょ？私を見て…

これでも顔には出さない派なので  
笑顔を振り撒いた。

「どうもすみません…。」

わざわざありがとうございます。」

目は笑ってないけどね…

女主人に一礼し

受けとった封筒の口部分を器用に開けると中には折り目正しく折られた一枚の紙が入っていた。



## 手紙の中の情報

一枚の紙をピラッと開いて見ると

D e a r    茂 玻

よっ！わしじゃわし！！この手紙を読んでるって  
ことは銀魂の世界に  
無事到着したってことか？

さっそくじゃが『狭間』  
にいた時に  
言い忘れてたことがある。

まずわしの名前じゃが神と呼んでも良いが出来ればアゲン・サイク  
レット・ライマ……アゲンと呼んでほしいのも願望の内じゃ。

次にお前の服装だが  
いくらなんでもこの世界で女子高の制服はマズイだろうから勝手に  
着物を着てもらった。

お前の

イメージカラーは桃色！！  
だから桃色の着物だ！

んで次はお前の家なのじゃが

？ 万事屋に入る  
？ 真選組に入る  
？ 長屋に住む

に自分で決めて欲しかったのじやが上からの指令で

？は仕事こなせそうにないからボツ

？すぐに斬られるからボツ

だから

？に決まっちゃった。

すまん。

まあ住めるだけ有り難さを嘗め。

長屋の場所はわしが後で  
直々に教える。

だがもしかしたら普通の  
長屋より少し広いか：狭いか。  
それを決めるのは上次第じゃ。

部屋の中はお前が前世にいた時のまんまじゃ。んでこの世界の流れ  
じゃが

全て原作どおりに進むとは限らん  
途中途中オリジナルせいが入ったり  
たまにあやふやになったりすることもあるが

まあとにかく  
がんばることじゃ！

後何かあったらこっちに連絡しろ

TEL 4523

（死後腐魅）

で覚えると楽じゃぞ！

じゃっ検討を祈る！

FROM アゲン

「……」

手紙をサッと封筒に入れ懷にしまつと黙つて団子屋から離れた。

自分の座つていた

椅子の近くに小錢を置いて。

ピッポッパッポッ

ブルルルル

ブルル…

「はいこちら神の子事務所でございます」

「アゲン…呼んで…」

「少々お待ちを…」

…

…

…

…

…

……

「もしも…」

「おっせえよオオオオ！！！！！！！！」

公道を歩いている者は突然でかい声を出した私に唖然とした顔を向けた…。だが今の私に他人など道路脇に生えてる雑草に過ぎない

「なんじゃ！！！！急にでかい声出しおって」

「ジジイどういう事じゃ！！！！」

私のイメージカラーが桃色！！！？冗談じゃないわよ！！私は蒼が好きなの！！！！そして前世でも蒼がイメージカラーだって占い師に言われたし！！」

「なんじゃ桃色が嫌いなのか！？」

「桃　か　りが嫌いだから」

「失礼じゃろうがああああ！！！！これとそれとは関係なからうが！！！！！！！！」

安心せい！クローゼットの中に色々な着物入っとなるから好きなもん選べ！だから軽々と芸能界の名前を出すな！！！！」

「ふーん…ま…別良いけどさ…後はあんたに用はない上呼んで…神  
つてこの世界に行ったり来たり出来るんでしょ？だつたら今すぐ此  
処に呼んで」

「な…なんでじゃ？」

「なんでつて今すぐ殺すから！」

「ハアアア！？お前さん何考えたんじゃ！！！」

「何つて…だつてもしかしたら真選組とか万事屋に入れるチャンス  
があつたのを上は私がヘタレみたいに思つてゐる訳で？を選んだつて  
わけでしょ？  
それも

勝手に…」

電話越しからの殺気漂うオーラが今にも画面から勢い良く溢れ出て  
きそうな口調にさすがのアゲンも恐怖心を覚え

「ま…待つんじゃ…上も上で忙しくてな…」

只今外出中なんじゃ…」

か帰ってきたらこの世界に行つてくれと頼んでみる。」

「あ…そうなるべく早くね。それともう一つさあ…」



「な…なんじゃ？」

「死後腐魅ってパクリじゃねえかよオオオオ！！！！」

鼓膜が破れそうなくらい大声で怒鳴られた。

「4523ってシゴフミでしょっ！！！！」

「パクってんじゃん！！！！完璧おもくそパクってんじゃん！！！！神様の癖してなんでパクってんの！！PTAに知られて事務所崩壊すれば！？」

「何もパクっておらん！！！！ていうか事務所が崩れたらわしら達終わりだぞ！！！！死ぬんだぞっ！！！！」

「神様はとつくのとつくのとつくにポツクリ逝っちゃてるでしょおがあああ！！！！」

「なんじゃお主！！！！一片死ぬか！！！！」

「今日死んだわよ！！！！！！！！」

「あのおゝすいません。」

「大体ねえ！！！！あんたの上司のメンツどういう面してんのよ！！！！どうせダンブ ドア先生とんな変わんない面してんでしょ！！！！もう顎髭ボーボーのフッサフサでしょ！！！！それに」

「あのお聞いてます？」

「事務所って何よ……！」

「神の子事務所」って……！神と子の乳繰り上げた事務所ってこと……！」

「神の子って呼ばれて良いのは

「幸村精市様」だけ……！」

「テ プリだけよ……！」それに……！」

「あのお聞いて……」

ブチッ

「うつせえんだよ後ろで……！こっちは今問い合わせ中なんだよ！  
……！用があんなら前で土下座……」

私はアゲンにとうとう

青筋が浮き出てしまい

私を呼んでいる誰かさんに八つ当たりというものをしてしまった。

でも

それは間違いだった。

「おいおいおめえ頭に何言っとんじゃ……！ア、ア……！」

「え…」

「よおお嬢ちゃん…」

喧嘩売ってんのか…

な  
」

私に優しく語りかけるその男はとてもがたいの良く背は…そうだな  
…185は越えてるのではないか？

「おい茂玻？どうしたん…」ガシャン…

静かに地に堕ちた携帯からは遠いアゲンの声が聞こえた。

などと落ち着いてる暇などない！！！！

やってしまった！！！

極道もんに

リーダーっぽい

兄貴共に

絡まれてしまった！！！

ピンチな時ほど自分にお助けの神は堕ちる（前書き）

いやあ時間かかったな。

ピンチな時ほど自分にお助けの神は堕ちる

「おい嬢ちゃんてめえ兄貴に向かって何ナメた口聞いてんじゃオラア！！！！」

兄貴と思われる私の目の前のごつつい体形の隣には子分と思われる右目に傷跡を残した若い男性が私に鋭い殺気と冷たい視線をおくるもう一人の子分が私に絡む

威圧感に押し潰され

たまらず下を俯く事しか出来ないというこの現状

「う…ごめんなさい」

その言葉の繰り返し

だけどやっぱり極道もん。そう簡単に返してくれないこのままじゃ私…

ケジメ取らされるうう！！！！

「兄貴どうしやすかこの女ケジメ取らせますか？」

来ちゃったああ！！！！！！恐れた事態がああ

私の身体は恐怖：

ただ恐怖にだけに怯え震え上がる。

「まあ待て待て

なあお嬢ちゃんお前：」

突然、私が言うのもなんだけど兄貴が私に話しかける

それも視線を脚をじっくり見てゆっくり視線を上げ顔を見る。

私の眼に写るのは、ニヤリといやらしい笑みでこちらを見る兄貴の姿

「3サイズは？」

「えっ？」

子分と私は同時に声を出した。

「だから3サイズ！教えてくれたら今回の件は撤回する」

よおおおっしやああ！！！！んとねヒップは…

なんて言えるわけないでしょおお！！！！！！！！  
何処の世界に撤回するかわりに3サイズ聞く中年親父がいるかよ！！

「早く教えてよ嬢ちゃん  
！！！！」

息を切らせ顔を火照らせながら鼻から息が上がる姿は極道もんというよりエロ親父。

「ええつと……」

「おいその女！！さつさと答えろ！！サイズ言えばこの話はチャラにしてくれるつつてんだ！  
運の付きだな！兄貴の機嫌が損なわんうちに言え！！」

どこに鼻血垂らしながら聞く子分がいるよ！！！！！！  
お前も結局知りたいんじゃないかよ！！

ふざけるなあー！！！！  
私は愛した男にしか言わない主義なんだよ！！！！

でも言わないでいれば、  
絶対ケジメ取らされるし  
あ”あこの危機的状況どう切り抜ければああ！！！！

「ねえ嬢ちゃん？」



「おい茂玻！！何があつた」

「早く兄貴に教える！！」

「嬢おちゃん？」

「おい茂玻！！！」

「早く教えろ！！じゃなきゃケジメ付けさせっぞ！！」

「茂玻！！茂玻！！」

「早く教えてよお」

「兄貴の機嫌が損なわんうちにさっさとしろやああ」

「茂玻アアアア！！！」

「お嬢ちゃ」

「うるさああい！！！！！！」

アゲンあんた空気読め！！！！ K・Yがつ！！

そして兄貴！！いやエロ親父！！！！あんた一々何なの3サイズ  
教えてっつ言われて教える程大層な女じゃないんだよあたしは！！

！！

そして右目傷ありの子分！！いや鼻血垂らし野郎！！！！！！あんた  
その鼻血キモいんだけど！！まじ子分とか有り得ない！！あんたら  
纏めて吉原にでも行って遊女と朝まで飲んだくれてれば良いんだよ  
！！！！

大体ね！

.....。



「兄貴！！もうこの女ケジメ取らせたほうが」

「好きにしろ」

あ…兄貴イイイイ！！！！

「さあ嬢ちゃん！どうケジメ取りたいかな？」

右目傷あり子分が腕回したり首の骨鳴らしたり指の骨鳴らしたり殴られる雰囲気になる。

そしてもう一人の男は

え…手袋に…針が…

いやいやいや！！！！

このままじゃ絶対死ぬ！！

「い…やめて下さい！！！！！！！！！！」

目をつむり殴られる恐怖を待った

ゴカツ！！！！

ゴカツ…？

つむつたは良いけど  
痛みがない？殴られた感じがしない？

ゆっくりと眼瞼を開く。

「あ……」

兄貴は倒れていた。

兄貴の身体を摩る二人の子分。

一体目をつむつた瞬間この数秒に事はどのように進んだのか？

しばらくするとゆらりと立ち上がる二人の子分。

その眼は、殺気漂いどす黒いオーラを放ちながら私を鋼の目つきで  
睨む。

「えっ？」

そして気づく。

私の手は

拳を作っていた。

拳からは白い蒸発したかのような煙がジュ〜っと気化する。

嫌な予感が的中する。

あの時

「や…やめて下さい!!」  
あの時!!!

言った瞬間に聞こえた  
ゴガッという音は

私が

兄貴にアッパを…

アッパーカットを

食らわせちゃったんだ!!!!!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9334z/>

---

転生ものだってよコノヤロオオオ！！

2012年1月10日20時49分発行